

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅢ (Seminar Ⅲ)	授業コード	E002608
担当教員名	森田 和子		
配当学年	3	開講期	前期
必修・選択区分	必修	単位数	4
履修上の注意または履修条件	授業への出席を重視します。休むときは連絡すること。		
受講心得	意欲的に勉強すること。		
教科書	プリントを配布。ケステルス著「世界を変えた12人の経済学者」、ドラッカー著「ネクスト・ソサエティー」		
参考文献及び指定図書	日本経済新聞などを読むことをすすめます。		
関連科目	前期は、公共経済学をあわせて受講してください。		

授業の目的	2年次の勉強を基礎に、さらに進んだ勉強をします。税金、財政改革など身近な問題を理解し、論理的に考える力を養成します。
授業の概要	ゼミナールはみんなで協力して勉強する場です。お互いを理解し、意見を交換し合うことで講義とはちがった経験をしてもらいます。

○授業計画		
学修内容	前期 第12章 ガルブレイス 後期 第11章 フリードマンを読む予定	学修課題(予習・復習)
第1週: 前期 第1回 履修指導。3年ゼミの年間計画。 後期 第1回 履修指導。		時間割、学習自己評価シートを持参してください。
第2週: 第2回 第12章より「社会主義者」ガルブレイス 第2回 ドラッカー ネクスト・ソサエティー(1)		予習は必要ありません。毎回プリントを提出してください。
第3週: 第3回 ガルブレイスの生いたち ティー(2)	第3回 ドラッカー ネクスト・ソサエ	
第4週: 第4回 貧困 都市的貧困と農村的貧困 ティー(3)	第4回 ドラッカー ネクスト・ソサエ	
第5週: 第5回 貧困(つづき) 開発援助 ティー(4)	第5回 ドラッカー ネクスト・ソサエ	
第6週: 第6回 貧困(つづき) 価格委員となる ティー(5)	第6回 ドラッカー ネクスト・ソサエ	
第7週: 第7回 価格委員となる(つづき) する	第7回 フリードマン 福祉国家に反対	
第8週: 第8回 ナチス経済の効率	第8回 福祉国家に反対する(つづき)	
第9週: 第9回 ナチス経済の効率(つづき)	第9回 レーガンは崇拜者	
第10週: 第10回 ゆたかな社会	第10回 レーガンは崇拜者(つづき)	

第11週: 第11回 ゆたかな社会(つづき)		第11回 フィリップス曲線	
第12週: 第12回 インド大使になる		第12回 フィリップス曲線(つづき)	
第13週: 第13回 新しい産業国家		第13回 反ケインズ革命	
第14週: 第14回 新しい産業国家(つづき)		第14回 マネタリズムの提唱者	
第15週: 第15回 評価		第15回 英・米・チリでの実績	
第16週: 期末試験 試験は実施しません。前期、後期とも第16週はまとめの補講を行います。			
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」	
	(2)複数担当の場合の方式		
	(3)アクティブ・ラーニング		
備考			

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	自発的に取り組む姿勢を評価する。幅広い視野で将来設計を考え、目標にそった学習計画をたてる。
【知識・理解】	ゼミの資料以外にも経済、財政に関する情報に日頃から目をむけ、4年次のゼミ論文に役立つようにする。
【技能・表現・コミュニケーション】	文章にまとめる力をつける。わかったことの要点を整理して書いてみる。
【思考・判断・創造】	関心をもっている問題、深く調べてみたいテーマを考える。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		50点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		15点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		15点		
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	各回のプリントを提出してもらいます。わからなかったところは自分で調べるなどして完成させること。
発表・その他 (無形成果)	出席を重視します。